〔生化学　第74巻　第11号，p. 1313，2002〕

アトモスフィア

もっと真面目に教育しよう！

富　田　基　郎*

我が国が現在停滞期にあることは明白であり，原因について多くの考察がなされている．産業界からは主要原因の一つに大学体質の旧さが指摘されており，納得できる点も多い．

研究は教育の土壌に咲く花であり，教育の土台は大学が担うことを大学教員は認識して，教育の充実にもっと眼を向けるべきである．その改善の実現には，もはや精神論だけでは間に合わず，抜本的制度改革の必要性を感じる．

1）学生に学習意欲を持たせるには

我が国の大学生の甘えはひどい．最大の原因は，どこの大学卒業生かが重要な科挙様風土の存在である．これでは学生が大学は勉学の場ではなく，単なる通過点と考えるのも無理はない．企業では国際競争が激しくなるにつれ実力主義に変更しているが，大学や行政も科挙様風土からの脱皮に自ら努力すべきである（ブランド大学にはその意識がなくとも他校大学が感じている限り，それは存在すると自覚すべき）．

学生の学費支払い者意識の欠如が甘えのもう一つの原因である．支払い意識の低い学生は，成績評価が甘く休講の多い教員を喜ぶ．これでは最近叫ばれている学生主体の教育を実施しても効果は少ない．奨学金貸付制度を大幅に充実して，希望学生には奨学金だけで自活できるぐらい貸す．その一方，返還しない卒業生には厳罰を科す．大学は自己責任で学ぶという意識を徹底させないと学習意欲に反映しないし，授業評価も甘くなる．

2）教育の重要性を制度として確保する

研究至上主義の大学教員は，「教授が熱心に研究する背中を見せるのが最良の教育である」，「やる気のない学生に教えても意味がない」などと主張する．このような教員に教育をしっかりとやってもらう制度を構築しなければならない．例えば，① 助手は準教授称号に変更した上で，双方向授業の教育指導義務を課す．これで教育はかなり手厚くなると思う．② 教育施設・設備の充実．教育補助設備の進歩は速いが，大学は追いついていない（研究重視の教授会は教育設備よりも研究設備を優先する）．③ 教育実績の評価制度の設置．教員採用は研究実績と徒党維持策で決まる例が現在でも多いが，教育評価欄を設けることが意識変革につながる．④ 学生と同じく教員の甘えも排除しなければならないが，母校出身教員に甘えの感情が派生し易いように感じる．母校出身者比率を抑制する制度が必要と思う．⑤ 博士課程学生の教育への参加の充実．現在でも存在するが，大幅に充実して義務化することが，将来の教員への円滑な移動を可能にする．

3）専門教育教員の研究と教育の二分化には反対

専門教育教員にも研究好きと教育好きの教員がおり，どちらに比重を置くかは，各教員が比率を事前自己申告・公表する制度とするのがよい．そして学部全体として両者のバランスをとるようにすればよい．制度としてどちらか一方の専任教員を置くことには反対である．どちらか一方しかしない（できない）教員は大学から退場する制度も必要である．研究専門の研究施設を大学が持つ意義は認めるが，そのような研究施設は教育施設とは峻別し，少なくとも基本を教育予算で運営すべきではない．逆の観点から現在議論されている専門職大学院は研究を軽視しており，自然科学に適用するには問題点が多いと感じる．

我が国国民の底力からすると現状の停滞は不本意である．虚心坦懐に考察して優れた教育制度の再構築を期待する．

*昭和大学薬学部教授